

太平山三吉信仰(たいへいざんさんきち・みよしんこう)

利尻島には、かつて秋田県移住者により持ち込まれた「さんきちさん・みよしさん」と呼ばれた信仰がありました。太平山三吉神社は、秋田県の中央に位置する太平山に鎮座し、勝利成功、事業繁栄の神社として知られています。太平の城主藤原三吉は、庶民の面倒をよくみた人でしたが、ほかの豪族にねたまれて追い出されたため、世を捨てて太平山にこもり、山の神様を深く信仰、修行に励んだため、神様としてまつられるようになったそうです。三吉は、タバコを好み、勝負強く力持ちであったといえます。

この三吉信仰の名残が、島内5カ所にそれぞれ石碑として残されています。金崎には、1906(明治39)年、ニシン建網を営んでいた長峰鉄蔵の61才を記念し、豊屋であった秋田出身の鎌田金蔵が建てた石碑が現在のセイコーマートの裏側にあります。沼浦は、鱈釣りで入ってきた秋田出身者が多く、1932(昭和7)年に建てられた石碑が沼浦神社入口のそばに建っています。南浜には、1940(昭和15)年、大野萬次郎らにより建てられた石碑があり、かつては神社もありました。神居には、お堂があり、清水熊五郎により大正後期に信仰が始まったといわれています。神磯にもお堂があって、現在神磯神社(1897(明治30)年創立)となっていますが、政治から遷されたものです。祭日には、相撲大会が行われることもありました。

また、沼浦・南浜には、信者の集まりである講が組織されていました。神磯や神居も同様で、例祭日はほぼ17日と決められ、社殿やお堂にご神体や掛軸がおさめられ、供物として野菜や果物のほか、タバコやキセルなどが供えられました。



金崎



沼浦



神磯



神居



南浜